環境放射線の評価結果をお知らせします。

平成24年 7月から9月

特集

放射線に関する特別インタビュー Part2
放射線の人体への影響を正しく知ろう

裏面をご覧ください▶▶▶

原子燃料サイクル施設の周辺環境における放射線の状況を把握するため、当社では、モニタリングステーション等による空間放射線量率の監視を連続的に行うとともに、さまざまな試料を採取し、分析・測定を行っています。

平成24年7月から9月の結果は、青森県の調査結果とあわせて、先般開催された、放射線の専門家や地元自治体・農漁協など各種団体の関係者等で構成される「青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議（評価委員会:1月23日開催、監視委員会:2月26日開催）」において審議され、**「概ねこれまでと同じ水準であった」**と評価・確認されました。下段に、青森県と当社のモニタリング結果をあわせて表示します。

当社ホームページのご紹介

当社ホームページでは、施設周辺の放射線測定のリアルタイムデータなどの情報をお知らせしています。

http://www.jnfl.co.jp

●放射線モニタリングのページ

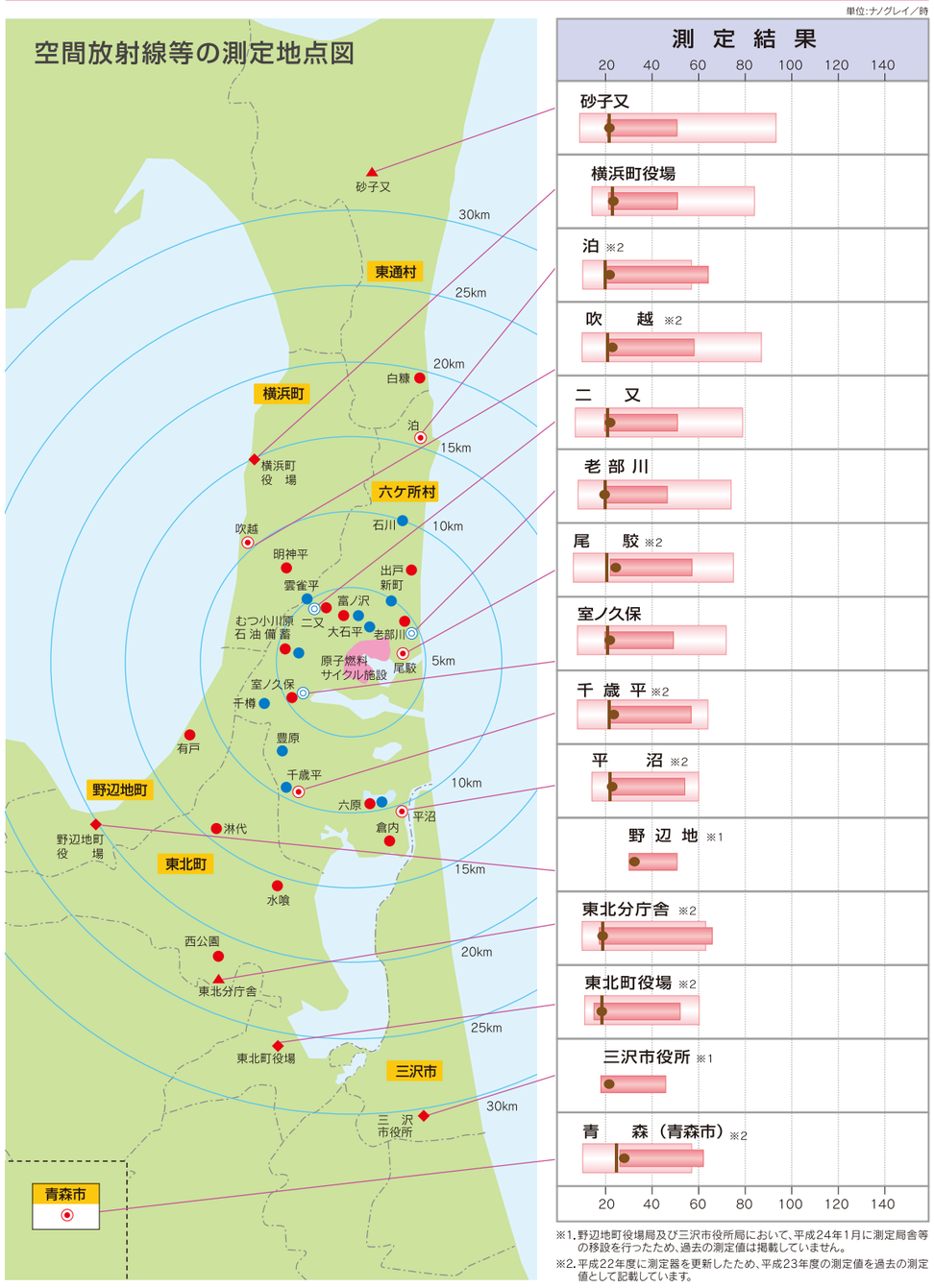
●空間放射線量の監視ページ

日本原燃
平成25年3月号

発行元:日本原燃株式会社 広報・地域交流室
TEL:0175(71)2002

空間放射線等のモニタリング結果

単位:ナノグレイ／時

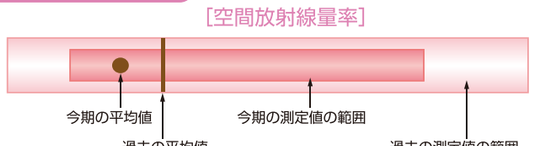


※1.野辺地町役場局及び三沢市役所局において、平成24年1月に測定局舎等の移設を行ったため、過去の測定値は掲載していません。

※2.平成22年度に測定器を更新したため、平成23年度の測定値を過去の測定値として記載しています。

グラフの見方

［空間放射線量率］

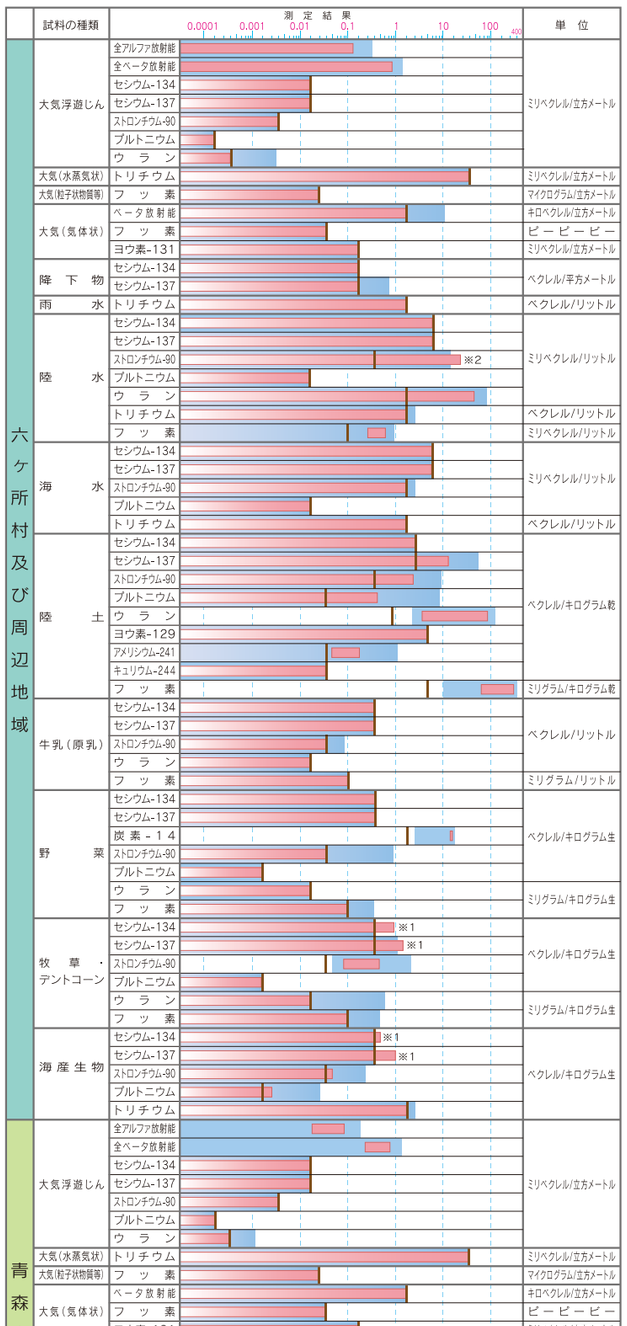


※過去の測定値：平成 19～23 年度の測定値

凡　例

区　分	県	事業者
モニタリングステーション及び積算線量計	◉	◎
モニタリングポスト及び積算線量計	◆	
モニタリングポスト	▲	
積算線量計	●	●

環境試料中の放射能等のモニタリング結果



※1.平成23年3月に発生した東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故の影響と考えられる

※2.過去の大気圏内核実験に起因するストロンチウム-90の自然変動によるものと考えられる

◎参考：「モニタリングつうしんあおもり」No. 87　平成24年度第2四半期報

凡　例

試料の種類		採取時期	記号
陸上試料	大気浮遊じん	4、7、10、1月	
	大気（粒子状物質等）	4、7、10、1月	
	大気（水蒸気状）	毎月	
	大気（気体状）	連続	
	降下物・雨水	毎月	

試料の種類		採取時期	記号
陸水	河川水	7、10月	
	湖沼水	4、7、10、12月	
	水道水	4、7、10、1月	
	井戸水		
陸土	河底土	7、10月	
	湖底土	10月	
	表　土	7月	
牛　乳（原乳）		4、7、10、1月	MILK

試料の種類		採取時期	記号
陸上試料	精　米	収穫期1回	
	野　菜（ハクサイ、ダイコン、イイダコ、ナガイモ、キャベツ、パレイショ）		
	牧　草	5、8月	
	デントコーン	収穫期1回	
	淡水産生物（ワカサギ、シジミ）	漁期1回	
	松　葉	4、10月	

試料の種類		採取時期	記号
海洋試料	海　水	4、7、10、1月	
	海底土	10月	
	海産生物（ヒラメ、アワビ、コンブ、イカ、ヒラツメガニ、ウニ、ホタテ）	漁期1回	
	ムラサキイガイ、チガイソ	4、10月	